

### 穂吉敏子さんに聞く――

## 『ちぐさの思い出』

インタビュー：筒井之隆 (ジャズミュージアムちぐさ館長)



2023年6月7日、横浜のJazz Spot DOLPHYで「穂吉敏子ピアノソロSpecial Live for New CHIGUSA」を開催した。光栄なことに、私にインタビューの機会が与えられた。1953年、ノーマン・グランツが率いるJATPの一員として来日したオスカー・ピーターソンに認められて初レコーディング、いきなりアメリカのジャズ専門誌「ダウンビート」で3つ星。オスカーの推薦で日本人として初めてパークリー音楽院に留学。ビッグバンド結成後、ダウンビートの批評家投票で15年連続第1位、グラミー賞で4度ノミネートされ、とうとう「ジャズの殿堂」に上り詰めたレジェンドである。戦後、野毛1丁目の旧ちぐさに

通ってジャズを勉強された当時のこと、ちぐさ創業者の吉田衛(通称おやじ)との交流など、広く語り継がれてきた「ちぐさ伝説」をご本人の口から聞くことができた。  
穂吉敏子、現役ジャズ・ピアニスト。ニューヨーク在住。93歳。  
Q 当時(1950年頃)、横浜の米軍クラブで演奏した後、ちぐさに立ち寄ってはレコードを聴いておられたそうですね。  
A はい、コーヒー1杯50円で閉店までいました。おやじさんに「あ

今のところをもう一回」と頼んでは、探譜しました。おやじさんは嫌な顔一つせずに、「はい」と言って何度でも針を戻してくれました。当時、ジャズの新しいスタイルだったビバップを勉強するにはジャズ喫茶でレコードを聴くしかなかったんです。



### 「ちぐさがなければ私の進歩はなかった。横浜は第二の故郷」

禁無断転載 Copyright © 2023 Jazz Museum CHIGUSA All Rights Reserved.

2023年秋号

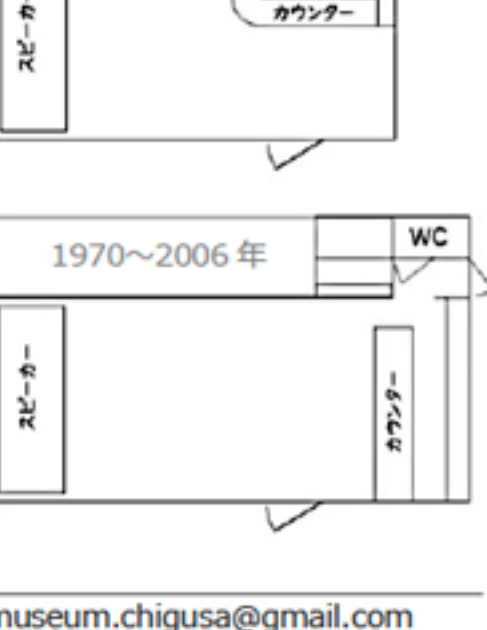
The New Chigusa Times

Q 主に誰のレコードを聴かれましたか?  
A ほとんどパド・パウエルです。チャーリー・パーカーのビバップ・スタイルを取り入れた最初のピアニストですから。レコードが擦り切れるほど聴きました。ちぐさにあるパドのレコードが一部分だけ擦り減っているのは私のせいです(笑)。  
Q 恩人のオスカー・ピーターソンは聴かれなかった?  
A あの人は正統派で、ものすごいテクニックの持ち主ですからマネできない。尊敬するだけ。(笑)

Q ちぐさがぶみだご録でしょうか?  
A ちぐさがなければ私の進歩はもっと遅れていたでしょう。いろいろな曲を覚えることも難しかったと思います。私にとって横浜は第二の故郷です。(本当の故郷は旧満州の遼陽)  
Q 当時のちぐさは空襲で焼けた後、1947年に再建されましたが、どんなお店でしたか?  
A 机が1つか2つしかなくて、3人座ればいっぱいになるようなお店でした。  
Q え、そんなに小さかったですか。最低でも10人くらいは入れたと聞いていますが。  
A いえ、それはウソです(笑)。店の突き当りに小さいバーカウンターがあって、その向こうにおやじさんが座っていてコーヒーを入れ、壁いっぱいに並んでいるLPから曲を選んでかけてくれました。店の広さは確かこれくらいだったかな…。(穂吉さん、両手を広げてみせる。会場から「机は4つありました」という常連さんの声飛び)

なにしろ、50年から70年以上前の話である。この議論は決着つかず持ち越されたが、その後、野毛1丁目の旧ちぐさは1970年に一度、改装されていたことが分かった。穂吉さんが通った1950年前後のちぐさは改装前の店舗で、スイングジャーナル誌に掲載されたスケッチによると、テーブルは1つか2つだが、客は7人描かれている。  
Q 穂吉さんがちぐさに寄るのはいつも夜遅くて、閉店まで粘ってレコードを聴かれたとお聞きしていますが。  
A その頃は、横浜の米国人の船員が集まるクラブに雇われて演奏していましたが、終わるのは9時半ごろで、それからちぐさに行ってレ

▼高橋清明さん提供のレイアウト  
1947～1970年 WC  
1970～2006年 WC  
1947～1970年 WC  
1970～2006年 WC



<https://jazzmuseumchigusa.wixsite.com/message> Mail to [jazz.museum.chigusa@gmail.com](mailto:jazz.museum.chigusa@gmail.com)

The New Chigusa Times

2023年9月1日発行

コードを聴きました。おやじさんに甘えて、閉店どころか、終電に間に合わないこともたびたびありました。

### 「93歳現役の秘訣は、朝の体操、1.5オンスの鍵盤、1日1本のワイン」

Q 穂吉さんの「ジャズに生きる」という本には、終電がなくなって、桜木町駅でタクシーの運転手と交渉してメーターなしの500円で外人墓地を回り、港の見える丘まで上がり、明けていく海を眺めながらアメリカに思いをさせ、それから大森の自宅まで帰ったと書かれています。  
A 海を眺めて何となく、遠いアメリカのどこかのレコード店に置いてあるかもしれない私のレコードのことを思ったりしました。

Q どうしてもお聞きしたかったことがあります。93歳にしてバリバリの現役。そのエネルギーを維持される秘訣はなんですか?  
A やらなきゃいけないことをやるだけです。毎朝の体操、毎日の練習、そして寝る前に歯を磨く(笑)。小学校の6年生の時に第2次世界大戦が始まり、体を鍛えられました。だから健康です。実は、体操も、ピアノの練習も、歯を磨くのも嫌いなんです。でも、生きていくために、やらなきゃいけないことはやるんだと決めています。  
Q 練習用のご自宅のピアノは普通のピアノより鍵盤が重いそうですね。  
A 1.5オンスで、普通の鍵盤の1.5倍の重さがあります。浜松のヤマハにお願いして直接引いたものです。演奏旅行していて辛いのは、毎日この鍵盤を押せないということですね。第1指(親指)の筋肉なんてすぐ落ちるんです。

Q 健康維持に関係があるのかどうかは知りませんが、ニューヨークのご自宅の地下には立派なワインセラーがあって、何千本も貯蔵されていると聞いています。  
A 今も5,000本あります。10年くらい貯蔵しておいしくなったものを、1日1本は飲みます。毎日、地下に下りて行っていいワインを選んで、また階段を上がってくる。いい運動になっています(笑)

Q いつかアメリカにわたってジャズをやるんだという思いを持たれたところで、深夜の店で、おやじさんと2人きりで過ごされて、何もなかったですか?  
A 何もって、何がですか?  
Q 当時、穂吉さんはまだ20代の若さですから、何か起こらなかったかと…。  
A 何かって…あつ、ロマンス?  
Q はい、そうですね(笑)  
A 冗談でしょう。とんでもない!(場内爆笑、新しい「ちぐさ伝説」そして期待していたおやじさんとこのロマンスは一笑に付されました)

Q 練習用のご自宅のピアノは普通のピアノより鍵盤が重いそうですね。  
A 1.5オンスで、普通の鍵盤の1.5倍の重さがあります。浜松のヤマハにお願いして直接引いたものです。演奏旅行していて辛いのは、毎日この鍵盤を押せないということですね。第1指(親指)の筋肉なんてすぐ落ちるんです。

Q しかし、5000本飲むのには何年かかるでしょう。  
A 1年に300本として10年。3000本あったら毎日飲む(笑)。いつかちぐさのおやじさんに会える日まで(笑)、まだまだ現役であるつもりです。  
\*  
今度は、新しくオープンしたちぐさで素敵なピアノが聴けることを楽しみにしています。日本での8公演を終わられて6/22羽田空港からニューヨークにお帰りになりました。

この日、穂吉さんはテーマソングの「ロングイェローロード」から平和を祈る「ホープ」まで、自分の人生をいつくしむように心込めて弾き切られた。演奏が終わると「今日はへたくそで、あまりうまく弾けない曲もありました。次に来たときはもっとうまく弾きますから」と、ジャズの終わりのない旅はまだまだ続くことを約束してくださった。



禁無断転載 Copyright © 2023 Jazz Museum CHIGUSA All Rights Reserved.

2023年秋号

The New Chigusa Times

### ジャズミュージアムちぐさに建替中です

2022年3月にジャズミュージアムちぐさの建設計画に伴うファンダを立ち上げましたところ、多くの皆様から暖かにご寄付いただき、2023年8月末時点でご寄付総額は総計6,913,257円(目標額一千万円)となりました。改めてお礼申し上げます。設計変更などにより大幅に竣工が遅れておりますが、ジャズを愛し、横浜を愛する企業、個人各位のさらなるご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

【基金概要】  
名称：Jazz Museum CHIGUSA ファンド  
目標金額：1,000万円  
特典ほか  
●ジャズの歴史的資料となるようなレコード、著作物、写真、オーディオ機器、楽器などをご寄贈していただける場合もファンド事務局へご一報ください  
●ちぐさのサポート・メンバーとして下記の特典が受けられます(各特典の内容は右記をご覧ください)  
<3,000円>  
①記念CDをお送りします  
<5,000円>  
②に加え①の記念誌もお送りします  
<10,000円以上>  
募金口数に関わらず②に加えドネーション・プレートに表示させていただきます(一口10,000円として上限はありません)

【特典内容】  
①「ちぐさ 90周年記念CD」(仮題・非売品) 歴代ちぐさ賞受賞者8人と第9回受賞者による9曲と、柴田浩一メモリアルアルバム収録曲から選んだ記念のコンピレーションアルバムです  
②「ちぐさ 90周年記念誌」(仮題・非売品) 寄付いただいた個人名・企業名を記載します  
③「ドネーション・プレート」(店内掲示) 寄付いただいた個人名・企業名を表示します

【建設概要】  
店舗名称：ジャズミュージアム・ちぐさ  
英文名称：Jazz Museum CHIGUSA  
施主：一般社団法人 ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館  
代表理事 藤澤智晴  
設計：株式会社山本建築設計  
音響設計：株式会社永田音響設計  
建物：敷地面積 35.19㎡  
建物面積 36.38㎡  
延床面積 58.33㎡  
鉄筋コンクリート構造  
建設場所：横浜市中区野毛町2-94館  
館長：筒井之隆 前カブナー  
トルミュージアム横浜館長

【お申し込み先】  
Jazz Museum CHIGUSA ファンド事務局  
振り込み先：横浜信用金庫 野毛町支店(普通)0234262  
(口座名)一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館

【お願い】  
ご送金いただきましたら、こちらのGoogleフォームでお申し込み内容をご連絡いただけますと大変助かります  
<https://forms.gle/P49MdpQUS77mYyK8E8>  
ないしは、この内容を下記までメールしていただいても構いません  
[jazz.museum.chigusa@gmail.com](mailto:jazz.museum.chigusa@gmail.com)  
<\* = 必須です>

・お名前\* ( )  
・お名前をHP等で掲載しても良いですか? \* ( )  
○はい(匿名・イニシャルなどで可)  
○いいえ(名前掲載しなくて良い)  
・HP等で掲載する際のお名前\* ( )  
・ご寄付いただける内容\*  
□寄付金(3,000円)  
□寄付金(5,000円)  
□寄付金(10,000円以上)  
□レコード  
□書籍  
□その他:( )  
・寄付金額\* (ご寄付いただいた方のみ) ( )  
・レコード、書籍等のご寄贈の内容(ご寄贈いただいた方のみ) ( )  
・メールアドレス\* (ない場合ばなし)とお書きください( )  
・電話番号\* ( )  
・郵便番号\* ( )  
・ご住所\* (都道府県からご記入をお願いします)( )  
・ご支援の方法\*  
○銀行振り込み(ご本人)  
○店頭(事務局代理入力)

<https://jazzmuseumchigusa.wixsite.com/message> Mail to [jazz.museum.chigusa@gmail.com](mailto:jazz.museum.chigusa@gmail.com)